

E E東北'26

## 企業・団体が 技術と魅力PR

3、4の両日、仙台市の夢メッセみやぎで開かれた建設新技術公開展示会「E E東北'26」には、多くの建設関連企業・団体が開発した優れた技術を出展したほか、建設産業の担い手の確保・育成に向けて魅力を来場者にアピールした。

このうち、ジェコスでは分解型小型杭打ち機「OTTOドリル」や緊急仮設橋「モバイルブリッジ」、仮設乗り入れ構台「T4ステージ」など、さまざまな分野で活躍する鋼製加工製品・工法の模型を展示した。会場に訪れた野房喜幸社長は



ジェコスの野房社長（上段右から2人目）と社員

「近年、開発に力を入れて取り組んできたことが実を結び、展示会で見て、知ってもらった企業から多くの問い合わせが寄せられている。知名度向上の観点でも出展の意義は大きい」と話した。

日綜産業は、新たな先行床施工式システム在来つり足場「New Standard Deck（ニュースタンダードデッキ、NSD）」をはじめ、主力製品の先行床施工式フロ



日綜産業のブース

ア型システムつり足場「クイックデッキ」と、よりも軽量で施工が簡便な「クイックデッキLite」のユニット部材などを展示。さらに新技術プレゼンテーションで各つり足場の高い安全性と優れた施工性などを解説した。

丸本組（宮城県石巻市、佐藤昌良社長）は、イオラボ（横浜市、吉井崇代表）と共同開発したインフラ点検ロボット「ロ



丸本組のインフラ点検ロボット

ボかちょーシゲさん」を初出展した。これまでのパイプ管内自走撮影ロボット「光祐」の後継機で、橋梁補修工事で設置するつり足場などの狭い場所でも多少の段差を乗り越えて撮影することができる。デモンストレーションでは機敏な動きを見せ、来場者を驚かせた。

発注者支援業団体の東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）は、



東北マネ技協の写真展

「工事のみりよく写真展」を開催した。東北各地で開いているがE E東北は初めて。会員企業の技術者が現場で撮影したライトアップされたダムや架設中の橋梁などのフォトジェニックなパネル写真約50点を展示するとともに、発注者支援業務への理解を促すリーフレットを配布。将来の担い手となる学生などから関心を集めた。